

42:1 ヤコブはエジプトに穀物があることを知って、息子たちに言った。「あなたがたは、なぜ互いに顔を見合っているのか。」 42:2 そして言った。「今、私はエジプトに穀物があるということを知った。あなたがたは、そこへ下って行き、そこから私たちのために穀物を買って来なさい。そうすれば、私たちは生きながらえ、死なないだろう。」 42:3 そこで、ヨセフの十人の兄弟はエジプトで穀物を買うために、下って行った。 42:4 しかし、ヤコブはヨセフの弟ベニヤミンを兄弟たちと一しょにやらなかった。わざわいが彼にふりかかるといけないと思ったからである。 42:5 こうして、イスラエルの息子たちは、穀物を買うに行く人々に交じって出かけた。カナンの地にききんがあったからである。 42:6 ときに、ヨセフはこの国の権力者であり、この国のすべての人々に穀物を売る者であった。ヨセフの兄弟たちは来て、顔を地につけて彼を伏し拝んだ。 42:7 ヨセフは兄弟たちを見て、それとわかったが、彼らに対して見知らぬ者のようにふるまい、荒々しいことばで彼らに言った。「あなたがたは、どこから来たのか。」すると彼らは答えた。「カナンの地から食糧を買いにまいりました。」 42:8 ヨセフには、兄弟たちだとわかったが、彼らにはヨセフだとはわからなかった。 42:9 ヨセフはかつて彼らについて見た夢を思い出して、彼らに言った。「あなたがたは間者だ。この国のすきをうかがいに来たのだろう。」 42:10 彼らは言った。「いいえ。あなたさま。しもべどもは食糧を買いにまいったのでございます。 42:11 私たちはみな、同じひとりの人の子で、私たちは正直者でございます。しもべどもは間者ではございません。」 42:12 ヨセフは彼らに言った。「いや。あなたがたは、この国のすきをうかがいにやって来たのだ。」 42:13 彼らは言った。「しもべどもは十二人の兄弟で、カナンの地にいるひとりの人の子でございます。末の弟は今、父と一しょにいますが、もうひとりはいなくなりました。」 42:14 ヨセフは彼らに言った。「私が言ったとおりのことだ。あなたがたは間者だ。 42:15 このことで、あなたがたをためそう。パロのいのちにかけて言うが、あなたがたの末の弟がここに来ないかぎり、決してここから出ることはできない。 42:16 あなたがたのうちのひとりをやって、弟を連れて来なさい。それまであなたがたを監禁しておく。あなたがたに誠実があるかどうか、あなたがたの言ったことをためすためだ。もしそうでなかったら、パロのいのちにかけて言うが、あなたがたはやっぱり間者だ。」 42:17 こうしてヨセフは彼らを三日間、監禁所に一しょに入れておいた。 42:18 ヨセフは三日目に彼らに言った。「次のようにして、生きよ。私も神を恐れる者だから。 42:19 もし、あなたがたが正直者なら、あなたがたの兄弟のひとりを監禁所に監禁しておいて、あなたがたは飢えている家族に穀物を持って行くがよい。 42:20 そして、あなたがたの末の弟を私のところに連れて来なさい。そうすれば、あなたがたのことばがほんとうだということになり、あなたがたは死ぬことはない。」そこで彼らはそのようにした。 42:21 彼らは互いに言った。「ああ、われわれは弟のことで罰を受けているのだなあ。あれがわれわれにあわれみを請うたとき、彼の心の苦しみをみながら、われわれは聞き入れなかった。それでわれわれはこんな苦しみに会っているのだ。」 42:22 ルベンが彼らに答えて言った。「私はあの子に罪を犯すなど言ったのではないか。それなのにあなたがたは聞き入れなかった。だから今、彼の血の報いを受けるのだ。」 42:23 彼らは、ヨセフが聞いていたとは知らなかった。彼と彼らの間には通訳者がいたからである。 42:24 ヨセフは彼らから離れて、泣いた。それから彼らのところに帰って来て、彼らに語った。そして彼らの中からシメオンをとって、彼らの目の前で彼を縛った。 42:25 ヨセフは、彼らの袋に穀物を満たし、彼らの銀をめいめいの袋に返し、また道中の食糧を彼らに与えるように命じた。それで、人々はそのとおりにした。 42:26 彼らは穀物を自分たちのろばに背負わせて、そこを去った。 42:27 さて、宿泊所で、そのうちのひとりが、自分のろばに飼料をやるために袋をあけると、自分の銀を見つけた。しかも、見よ。それは自分の袋の口にあった。 42:28 彼は兄弟たちに言った。「私の銀が返されている。しかもこのとおり、私の袋の中に。」彼らは心配し、身を震わせて互いに言った。「神は、私たちにいったい何ということをしたのだろう。」 42:29 こうして、彼らはカナンの地にいる父ヤコブのもとに帰って、その身に起こったことをすべて彼に告げて言った。 42:30 「あの国の支配者である人が、私たちに荒々しく語り、私たちを、あの国をうかがう間者にしました。 42:31 私たちはその人に、『私たちは正直者で、間者ではない。 42:32 私たちは十二人兄弟で同じひとりの父の子で、ひとりはいなくなったが、末の弟は今、カナンの地に父とい

っしょにいる』と申しました。42:33 すると、その国の支配者である人が、私たちに言いました。『こうすれば、あなたがたが正直者かどうか、わかる。あなたがたの兄弟のひとり私のところに残し、飢えているあなたがたの家族に穀物を持って行け。42:34 そしてあなたがたの末の弟を私のところに連れて来い。そうすれば、あなたがたが間者ではなく、正直者だということが私にわかる。そのうえで、私はあなたがたの兄弟を返そう。そうしてあなたがたはこの地に出はいるができる。』」42:35 それから、彼らが自分たちの袋をからにすると、見よ、めいめいの銀の包みがそれぞれの袋の中にあるではないか。彼らも父もこの銀の包みを見て、恐れた。42:36 父ヤコブは彼らに言った。「あなたがたはもう、私に子を失わせている。ヨセフはいなくなった。シメオンもなくなった。そして今、ベニヤミンをも取ろうとしている。こんなことがみな、私にふりかかって来るのだ。」42:37 ルベンが父にこう言った。「もし私が彼をあなたのもとに連れて帰らなかったら、私のふたりの子を殺してもかまいません。彼を私の手に任せてください。私はきっと彼をあなたのもとに連れ戻します。」42:38 しかしヤコブは言った。「私の子は、あなたがたといっしょには行かせない。彼の兄は死に、彼だけが残っているのだから。あなたがたの行く道中で、もし彼にわざわざいふりかかれば、あなたがたは、このしらが頭の私を、悲しみながらよみに下らせることになるのだ。」

## はじめに

今日、初めて来られた方々や久しぶりに来られた方々のために、ヨセフの人生からの学びを手短かに振り返ってみましょう。

これまでの話は次のとおりです。

- a) ヨセフは、父ヤコブのお気に入りの息子でした。兄たちは、そんなヨセフに嫉妬していました。
- b) ある日、ヨセフの兄たちはヨセフを穴に放り込み、エジプトに向かう商人にヨセフを奴隷として売りました。兄たちは、ヨセフの上着を動物の血に浸し、彼が殺されたように見せかけました。兄たちは、このような罪を犯しました。
- c) ヨセフは、エジプトで奴隷として売られました。買い手は、エジプトの王パロのもとで仕える高官ポティファルでした。ヨセフは与えられた職務で成功し、主人の家のすべてを管理する立場になりました。エジプトで奴隷が得られる最高の職を得ました。神は、ポティファルのためにヨセフが行うすべてのことを祝福してくださいました。
- d) 敵であるサタンは、ポティファルの妻を使ってヨセフを誘惑しました。ヨセフを性的に誘惑したのです。けれども、ヨセフはその誘惑になびかなかったので、ポティファルの妻は気分を害しました。そして、ヨセフに襲われそうになったと言ったので、ヨセフは牢獄に入れられました。神は、牢獄でもヨセフを祝福されたので、ヨセフは囚人のお世話を務める任せられました。
- e) ヨセフの服役中、王宮の献酌官長と調理官長がパロの怒りに触れ、ヨセフのいた牢獄に送られてきました。ある夜、ふたりが夢を見ました。ヨセフはその夢を解き明かすことができました。献酌官長は王宮でもとの職に戻され、調理官長は処刑されました。ヨセフは、自分を釈放してくれるようパロに話してほしいと献酌官長に頼みました。しかし、そうはならず、ヨセフはさらに2年間牢獄に入ったままでした。
- f) 今度はパロが夢を見ました。けれども、誰も解き明かせる者がいませんでした。そのとき、献酌官長は牢獄でいっしょだったヨセフのことを思い出しました。ヨセフは牢獄から出され、パロの夢を解き明かしました。解き明かしの内容は、エジプトでまもなく7年間豊作が続き、その後、7年間飢きんに見舞われるというものでした。ヨセフは、豊作の7年間に作物の過剰分を管理させる人物を任命し、飢きんの7年間にその人物に食物の配布を任せるようにという助言をしました。パロは、ヨセフの知恵に感心し、ヨセフをパロのもとで仕えるエジプト全土の管理者に任命しました。飢きんの7年間が始まろうとする場面から今日の個所42章です。

42 章は、3 つに分けることができます。

### 1. ヨセフの兄たちの罪悪感が目覚める。(1-5 節)

「良心というやつは、人を臆病にしてしまうものだ。」

これは、有名なイギリスの劇作家シェイクスピアの言葉です。

彼が言いたかったのはおそらくこういうことでしょう。誰にも「良心」というものがある、大きな過ちを犯してしまった時、その記憶がいつまでもつきまとい、いつ良心が目覚めるかわからないということです。

良心が目覚めると、犯した過ちの結末を恐れ、人は臆病になるというわけです。

この 1-5 節で、ヨセフの兄たちの良心が目覚めはじめていたのは明らかです。

この個所には、それを示す根拠がふたつ含まれています。

まず、穀物を買うにエジプトに行くようヤコブが息子たちをせきたてなければならなかったことです。

エジプトには食物があるとヤコブが知っていたなら、息子たちも知っていたはずですが。

けれども、なぜ彼らは自ら積極的にエジプトに行こうとしなかったのでしょうか。

それは、父に話していない過去の罪が彼らにあるからです。

この 20 年ほど前に、自分たちがヨセフをエジプトに向かう商人たちに奴隷として売ったことを彼らはわかっていました。

そして、自分たちのやったことを隠すために、ヨセフが死んだように見せかけたこともわかっていました。

さらに、父ヤコブがまだヨセフの死を悲しんでいることもわかっていました。

「エジプト」という言葉を聞くだけでも、良心が痛んだはずですが。

ヤコブは、穀物を買うにエジプトに行きなさいと息子たちに命令しなければなりませんでした。

もうひとつの根拠は、ヤコブが末っ子のベニヤミンを兄たちに同行させなかったことです。ヨセフがいなくなって 20 年以上経っていました。当時、ベニヤミンは幼い子どもで、5 歳くらいにはなっていたでしょう。

ということは、ベニヤミンはもう 25 歳くらいだったはずですが、彼が兄たちと一緒にエジプトに行くことをヤコブは許しませんでした。

ヨセフがいなくなったのは 17 歳のときでした。ですから、ベニヤミンを行かせなかったのは年齢の問題ではありません。

4 節には、ベニヤミンに何らかの災いがふりかかることをヤコブが心配したとあります。

このことから、ヤコブがヨセフの失踪からまだ立ち直れていないことが伺えます。

ヤコブのこの判断は、ヨセフの兄たちの良心をさらに痛めたことでしょう。

兄たちは、ヨセフに対して犯した罪を隠せたかもしれませんが、その粗暴な性質は隠せなかったのです。

ヤコブは、彼らの性格や犯してきた罪を知っていました。

ヤコブは、創世記 37 : 11 でヨセフの夢を心に留めるような賢明な人でした。

### 2. ヨセフの兄たちが罪悪感に苛まれる。(6-22 節)

ヨセフの兄たちは、穀物を買うためにエジプトに向かいました。

エジプトに着くと、そこには穀物配布を指揮する人物がいました。

兄たちは、食物配布を指揮する人物がヨセフだとは気づきませんでした。

ヨセフとは 20 年以上も会っていなかったのです。

また、ヨセフがそのような権力ある立場にあるとは思いませんでした。

ヨセフは、エジプト人のような顔をして、エジプト人のような服装で、エジプト人の話す言葉を話していたはずですが。

けれども、ヨセフはそれが兄たちだとわかりました。

6 節に、ヨセフの兄たちはまず顔を地につけてヨセフを伏し拝んだとあります。これで、ヨセフが 17 歳のときに見た預言の夢が一部成就しました。ヨセフの夢では、兄弟全員と父母もヨセフの前でひれ伏すことになっていました。このときはまだ、弟と父母が来ていませんでした。

(創世記 37 : 1-11)

しかし、9 節には、ヨセフがその夢を思い出したとあります。ヨセフは兄たちに気づき、20 年前の夢を思い出すと、兄たちにつらく当たりました。なぜそのように兄たちに接したのでしょうか。なぜ、この時点で自らの素性を明かさなかったのでしょうか。その答えは、この状況で神がご自身の目的を果たそうとなさっていたからです。聖書は、神が善なるお方なので、悔い改めをもたらされると教えます。

(ローマ 2 : 4)

神は、ヨセフの兄たちを悔い改めに至らせるために、忍耐してくださっています。神は、ヨセフを用いて、彼らが 20 年前の罪について考えるようになさいました。聖霊は、兄たちを悔い改めに導くため、この状況の中で働いておられました。ヨセフは兄たちにスパイの嫌疑をかけたので、彼らは自らの身の潔白を証明しなくてはならなくなりました。最初に、ヨセフは彼らの言うことが本当か試すために、兄弟のひとりのカナンに送り返して、末の弟を連れてエジプトに戻るようと言いました。ヨセフは、兄弟たちを全員 3 日間、監禁しました。その後、兄たちはそこから出され、ヨセフは兄弟のひとりを送り返すことを思いなおしました。

18 節で彼はこう言っています。「次のようにして、生きよ。私も神を恐れる者だから。」ヨセフはここで兄たちに対し、アブラハム、イサク、ヤコブの神を持ち出しています。ヨセフは、神を恐れると宣言しました。こうすることで、兄たちも神を恐れるべきだと呼びかけているのです。ヨセフの新たな提案は、兄弟のひとりが監禁所に残り、他の兄弟たちは穀物を十分に持って家に帰るようというものでした。兄弟たちが末弟のベニヤミンを連れて戻ってくる保証として、シメオンが監禁所に残ることになりました。ヨセフは、カナンに残された家族に対して、あわれみを示していました。兄弟がたくさんいれば、それだけたくさんの穀物を持ち帰ることができます。**兄たちは、この提案を受け入れました。**ここで重要なのは、21-22 節です。

42:21 彼らは互いに言った。「ああ、われわれは弟のことで罰を受けているのだなあ。あれがわれわれにあわれみを請うたとき、彼の心の苦しみを見ながら、われわれは聞き入れなかった。それでわれわれはこんな苦しみに会っているのだ。」 42:22 ルベンが彼らに答えて言った。「私はあの子に罪を犯すなど言ったのではないか。それなのにあなたがたは聞き入れなかった。だから今、彼の血の報いを受けるのだ。」

まず、注目すべきなのは、ヨセフがエジプトの言葉で話していたので、兄たちには通訳者を介して会話していたことです。ヨセフは、兄たちが自責の念を口にすることを聞きました。24 節には、ヨセフは彼らから離れて泣いたとあります。それは喜びの涙でした。というのも、とうとう兄たちが 20 年前の罪を白状したからです。ヨセフは、神が彼のうちに、そして彼をとおして働いてくださり、兄たちの心に働いてくださったことを感じたのでしょうか。これについては、後ほど大切な適用ポイントをお話しします。

### 3. 神の恵みがヨセフの兄たちや家族の必要を満たした。(38 節)

25 節には、ヨセフをとおして働く神の恵みを見ることができます。

ヨセフは、兄たちが持ち帰れる穀物を与えるように命じ、穀物を買うために使ったお金も戻すように命じました。

つまり、穀物は無償で与えられたのです。

そのうえ、ヨセフは帰りの道中の食べ物と水も与えるように命じました。

帰り道の一晩目に、兄弟のひとりが戻されたお金を見つけました。穀物の袋の上においてあったのです。

兄弟は皆、お金が返されていることに混乱し、恐れしました。

「神は、私たちにいったい何ということなをなさったのだろう。」と言いました。

ここで興味深いのは、この状況で神が何かをなさっていると兄弟たちが気づいていることです。しかし、何をなさろうとしているのかわかりませんでした。

この時点では、彼らはまだ神の驚くべき恵みに気づいていませんでした。

それはまだ後のことです。

彼らは父ヤコブのもとに帰り、エジプトで起こった事のなりゆきをすべて話しました。

ヤコブは、神が何をなさっているのかわかりませんでした。

彼はただ、ヨセフを失ったこと、そしてもうひとりの息子シメオンがエジプトで監禁されていて、釈放してもらうには末っ子のベニヤミンをエジプトに連れて行かねばならないということだけに気をとられていました。

すると 37 節で、驚くべきことが起こります。

42:37 ルベンが父にこう言った。「もし私が彼をあなたのもとに連れて帰らなかったら、私のふたりの子を殺してもかまいません。彼を私の手に任せてください。私はきっと彼をあなたのもとに連れ戻します。」

長男が父に、ベニヤミンをエジプトに連れて行って必ず無事に帰らせると約束しました。

ヤコブは、ベニヤミンが帰ってこなければ死ぬというようなことを言いました。

では、42 章から私たちの信仰生活に応用できる教えを挙げていきましょう。

#### 適用

#### 1. 私たちは常に、神に対する健全な恐れを持つべきである。

「変わりゆく人生の中で」という賛美歌には、「神の聖徒よ、神を恐れよ。さすれば他に恐れるものなし」という歌詞があります。

これは、聖書の真理が示されています。

では、18 節をもう一度読みましょう。

42:18 ヨセフは三日目に彼らに言った。「次のようにして、生きよ。私も神を恐れる者だから。

この個所で、ヨセフは兄たちに良心について教えています。

ヨセフの良心の基は、神への恐れでした。

それで、兄たちも神を恐れなければならないと語ったのです。

21 節から、神への恐れが兄たちにも及んだことがわかります。

ヨセフのちょっとした呼びかけが功を奏しました。

神に対する健全な恐れを常に持つことは、クリスチャンにとって非常に大切です。

神への恐れは、聖書に 300 回ほど登場します。

ですから、これをどのように私たちに当てはめるかを考える前に、神への恐れについて理解しておくことが大切です。

神への恐れが何を意味するのかを知る助けとなる旧約聖書の個所をここでいくつか引用しましょう。

### 出エジプト 1:17

1:17 しかし、助産婦たちは神を恐れ、エジプトの王が命じたとおりにせず、男の子を生かしておいた。

ヘブル人の助産師はパロよりも神を恐れました。

### 出エジプト 9:29-30

9:29 モーセは彼に言った。「私が町を出たら、すぐに【主】に向かって手を伸べ広げましょう。そうすれば雷はやみ、雹はもう降らなくなりましょう。この地が【主】のものであることをあなたが知るためです。 9:30 しかし、あなたとあなたの家臣が、まだ、神である【主】を恐れていないことを、私は知っています。」

パロは神を恐れませんでした。

では次に、新約聖書も見ていきましょう。

マタイ 10:28 からだを殺しても、たましいを殺せない人たちなどを恐れてはなりません。そんなものより、たましいもからだも、ともにゲヘナで滅ぼすことのできる方を恐れなさい。

イエスは、人を恐れず神を恐れるようにと教えておられます。

Ⅱコリント第二 7:1 愛する者たち。私たちはこのような約束を与えられているのですから、いっさいの霊肉の汚れから自分をきよめ、神を恐れかしこんで聖きを全うしようではありませんか。

パウロは、クリスチャンにとって聖さが大切であることを教えます。そして、聖さを求める動機が神への恐れであるべきだと言います。

罪に関してパウロが説く個所では、「彼らの目の前には、神に対する恐れがない」から、人々は罪を犯し続けるのだと語ります。

これらの個所から、神を恐れない人々は罪深い行いの結末を理解しておらず、罪を犯しつづけて好き勝手する、ということがわかります。

一方、神を恐れる人々は、どんな権力者よりも神は偉大なお方であることを理解します。そして、神に敬意と従順を示さなければならないと悟ります。

また、神が創造主であり所有者であることを理解し、自分たちの行動には必ず何らかの結果が伴うことを理解します。

42章 22節で、ヨセフに対する兄たちの罪にも結果が伴うことにルベンは気づきました。その結果とは死です。

兄たちの心に神への恐れが芽生えたことで、最終的に彼らは悔い改めに至り、ヨセフに赦してもらったこともできました。これはまた後日の個所でわかります。

では、私たちの生活に当てはめて考えてみましょう。

まず、新生したクリスチャンにとって神への恐れがどのようなものであるか、皆さんに知っていただきたいと思えます。

### ヨハネ第一 4 : 16-19

4:16 私たちは、私たちに対する神の愛を知り、また信じています。神は愛です。愛のうちにいる者は神のうちにおり、神もその人のうちにおられます。 4:17 このことによって、愛が私たちにおいても完全なものとなりました。それは私たちが、さばきの日にも大胆さを持つことができるためです。なぜなら、私たちもこの世にあってキリストと同じような者であるからです。 4:18 愛には恐れがありません。全き愛は恐れを締め出します。なぜなら恐れには刑

罰が伴っているからです。恐れる者の愛は、全きものとなっていないのです。4:19 私たちは愛しています。神がまず私たちを愛してくださったからです。

この箇所は、私たちが神に罪を告白し、私たちのために死んでくださったイエスの御業を信じるなら、聖霊によって神の愛が私たちの心にも思考の中にも生きているはずだと教えてくれます。

私たちの罪の罰はイエスが受けてくださったという確信が私たちにはあります。ですから、私たちは罪に対する神の裁きを恐れません。

その裁きは、イエスにくだされたからです。

しかし、神と神の聖霊との親しい交わりは、私たちの罪深い行いに邪魔されます。

ですから、私たちが神への健全な恐れを持っていれば、過ちや罪を犯してしまったときすぐにその罪を告白します。

イエスと親しくなればなるほど、自らの罪を自覚するようになります。

神に自分の罪を告白していない人、イエスによる神の赦しを経験していない人にとって、神への恐れとはどういうものでしょう。

ある人が言いました。「神の愛の癒しが心に注がれるのを感じる前に、私たちは自らの罪を白状しなければならない。」

神への恐れは、クリスチャンや神を恐れる人たちを避ける原因にもなり得ます。けれども、神への恐れは、むしろ神のほうへ進み出てイエスに罪を告白するきっかけにもなります。

ヨセフの兄たちのように、罪の結末を恐れることで、神に引き寄せられる段階があります。自分の罪を神の前に認めるのは簡単なことではありません。

ヨセフの兄たちは20年もかかりました。

皆さんも、もう先延ばしにしないで、イエスに罪を今日告白しませんか。

信仰の一步を踏み出し、神が愛してくださっていることと私たちの罪のために御子を送ってくださったことを信じようといったん心に決めれば、あとは簡単です。

ヨハネ 3:16 神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。

## 2. 私たちは、日常生活で、イエスを知らない人に対しても、恵みを実践しなければならない。

ヨセフは、兄たちを監禁して、ベニヤミンを連れてくるためにひとりだけ送り返すことを思い直しました。

ひとりでは、穀物をたくさん持ち帰ることはできません。

また、お金を返したこともすべて恵みです。

恵みは、受けるにふさわしくないほどの神からの賜物です。

兄たちは、穀物を得るのに一円も払いませんでした。それは、ヨセフをとおして与えられた神からの賜物です。

私たちの救いは、イエスをとおして与えられた神からの賜物です。

### エペソ 2 : 8-9

2:8 あなたがたは、恵みのゆえに、信仰によって救われたのです。それは、自分自身から出たことではなく、神からの賜物です。2:9 行いによるものではありません。だれも誇るためのためです。

私たちクリスチャンには、神が恵みをいつも注いでくださいます。なかなか同じようにはできませんが、私たちもそうするよう努めなければなりません。

33年ほど前に、神が私に注いでくださった恵みの証をここでお話します。

私には、返済できないほどのビジネス上の借金がありました。

私は民事裁判所に行ったとき、分割返済の裁判所命令がくだされるだろうと思っていました。裁判所の外に車を止めて待つ間、神の恵みの奇跡を祈りました。借金を取り去ってください、この荷は重すぎます、と祈りました。もし神がそうしてくださったら、神に仕えるために人生をおささげしますと約束しました。裁判所に入ると、この件に関する書類がすべて紛失中だと告げられました。裁判官は、「7日以内に書類を再発行できなければ、この借金は無効となります」と言いました。

これは33年前のことです。神は、私の借金を払ってくださいました。神の恵みが私に注がれ、私は神に人生をささげました。私たちが恵みを周りの人たちに注げるよう、神が助けてくださいますように。神の恵みのメッセージを人々に伝え、人に恵みをもって接することで、恵みを注ぐことができます。